

ファミリー交響楽コンサート

市響のクリスマスプレゼント

2006

指揮：早川正昭（市川交響楽団名誉指揮者就任）
管弦楽：市川交響楽団

平成18年12月24日（日）

午後2時開演

市川市文化会館大ホール

（JR総武線・都営新宿線 本八幡駅下車）

市響ホームページ <http://www33.ocn.ne.jp/~ichikyo>



本日のプログラム

J. シュトラウスⅡ 喜歌劇「こうもり」序曲

モーツァルト 交響曲第25番 ト短調

*

ブラームス ハンガリア舞曲集より (早川正昭 編曲版)

コダーイ 音楽物語「ハーリ・ヤーノシュ」(ナレーション付)

ツィンバロム ソロ

崎村潤子 (さきむら・じゅんこ)

日本打弦楽器協会推奨

国立音楽大学打楽器科卒業。マリンバを鈴木明子、草刈とも子、上野信一、岡田知之の各氏に師事。ツィンバロムを加納靖子氏に師事。東京都交響楽団など、多数のオーケストラと共演。

第3回世界ツィンバロム・コンGRESS (1995) [Bratislava, Slovakia] 日本代表として参加。スロバキアテレビに出演。Pravda 等に取り上げられた。

教育活動ではNHK教育テレビ、ワンツードンなどのマリンバのおねえさん、ユリ・リトミック教室講師、NHK学園〈子どものリトミック〉添削講師、ロンドン・ジャパニーズ・ヘリテージスクール講師 [カナダにて] 等を経て、現在 Marimba.org 音楽教室主催。

ナレーション

小合基夫 (おごう・もとお)

岡山県出身。子供の頃より演劇関係者である母親の影響で演劇に興味を持つ。

1995年千葉大学教育学部入学。在学中に演劇サークル・劇団「NONNY」(ノニー)に所属。卒業後に舞台演劇、TVドラマ出演等を経て「梅沢劇団」に所属し、女形役で全国各地にて公演を行う。劇団退団後、文京区立林町小学校に講師として就職するかたわら、演劇の経験を生かして各地でボランティア活動を行う。現在、市川市立国分小学校に勤務(5年生担任)。

指揮

早川正昭 (はやかわ・まさあき)

1956年東京大学卒業。1960年東京芸術大学作曲科卒業、指揮を渡辺暁雄氏に師事。翌年ヴィヴァルディ合奏団を創設、数回にわたる海外公演で、自作品「レクイエム・シャーンティ」等を指揮して大成功を博し、国際的に認められる。1978年文化庁在外研修員として、ウィーンとミュンヘンを中心にバロック音楽と古典舞踏について学んだ。帰国後新ヴィヴァルディ合奏団の指揮者を務め、同時に主要オーケストラに客演、また、フルートのジャン＝ピエール・ランパル、ホルンのペーター・ダム、ヘルマン・パウマン等世界的なソリストとも共演している。自作品も多数海外で出版され、むしろ海外で演奏される機会の方が多い。自作品を含む演奏会でドイツ、スイス、ロシア等に招かれ、その作品と指揮が各地で高く評価されている。ヴィヴァルディに関する訳書もあり、CDも多数出版している。現在、新ヴィヴァルディ合奏団常任指揮者、広島大学名誉教授。2006年市川交響楽団名誉指揮者に就任。



管弦楽

市川交響楽団 (いちかわこうきょうがくだん)

平成18年に創立55周年を迎えたアマチュアとしては全国有数の伝統を持つオーケストラ。

メンバーは現在100余名で年齢構成は20代から70代までの幅広い層にわたり、職業も会社員、教員、主婦など多彩。地元市川市での演奏会を中心に全国各地での文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にもしばしば招かれ演奏を披露している。また、著名な音楽家との共演も数多く経験しているほか、特に地元ゆかりの音楽家との共演にも力を注ぎ、地域の音楽芸術の振興に多大な貢献をしている。

市川交響楽団は市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、行徳混声合唱団、市響ジュニアオーケストラの各団体とで構成する市川交響楽団協会の中核として“クラシック音楽をより多くの市民に楽しんでもらおう”をモットーに常に積極的な活動を展開している。

市響ファミリーコンサートへようこそ！

今日はクリスマス・イヴ、市響が皆さんにお届けするプレゼントは、それぞれが個性的な名曲ぞろいのプログラムです。

前半の2曲は、オーストリアのウィーンで活躍した2人の作曲家の作品、後半のプログラムはハンガリーの音楽をお届けいたします。

J.シュトラウスII / 喜歌劇「こうもり」序曲

ウィーンで活躍しワルツ王と呼ばれたJ.シュトラウスII世の代表的なオペラのオープニング曲です。

主人公アイゼンシュタインは大晦日の晩、大金持ちのパーティーに招待され、そこでハンガリーの貴婦人に会い一目ぼれします。秘蔵のアクセサリ時計を餌に口説きにかかりますが、実は彼女は自分の奥さんの扮装。浮気をとっちめられるというストーリーで、この騒動を仕掛けたファルケ博士のあだ名がこのオペラのタイトル名“こうもり”の由来です。

曲はオペラ中のウィーン情緒あふれる名旋律を次々とつなげて作られています。特に印象に残るのは、中ほどにでてくるワルツで、このオペラの中でも、豪華なパーティーでワルツが踊られるシーンで使われています。シャンパンの泡立ち、乾杯グラスの鈴のような響き、セクシーなドレス、シャンデリアの輝き、ダンスの音楽とステップ、香水、そして恋の駆け引き、それらがあふれるイメージを想像しながらお聴き下さい。

モーツァルト / 交響曲第25番 ト短調

映画「アマデウス」で一躍モーツァルトの代表曲となったこの曲も、以前は「小ト短調交響曲」と呼ばれ、同じト短調の有名な40番 K.550と対でしか扱われなかった嗜好みの曲でした。モーツァルトの40曲以上ある交響曲の中、短調で書かれた交響曲はこの2曲だけです。それはおそらく当時の交響曲がコンサートのオープニングを華やかに飾る役割があったからでしょう。

この曲の特徴として、当時には珍しくホルンが4本使われていることがあります。これはオーケストラのサウンドを豊かにするだけでなく、ホルンの音程(=管の長さ)の異なるホルンを2本ずつ組み合わせ、当時のホルンでは出すことの出来なかった音を、2組が互いを補いながらメロディを演奏するように書かれています。市響ホルンのチームワークもお聞きください。

第1楽章：アレグロ・コン・ブリオ(軽快に生き生きと)は「モーツァルトの痛々しさ」が感じられる、17歳のときの曲とは思えない音楽です。

第2楽章：アンダンテではヴァイオリンとバスーンが短いフレーズを対話しあう音楽で、「モーツァルト時代のアンダン

テは決して遅くなかった」とおっしゃる早川先生のテンポで私が発見したものは若々しいモーツァルトの姿です。

第3楽章：先の第2楽章とは対照的に、エネルギーあふれるメヌエットです。中間部には、当時の宮廷舞踊を思わせる、管楽器によるトリオが挟まれます。

第4楽章：アレグロは神秘的で、後ろから何かが迫ってくる感じを私はイメージしていますが、皆さんはどうでしょうか？アンケートでもご意見をお聞かせ下さい。

ブラームス / ハンガリー舞曲より

第1番ト短調 第2番ニ短調 第3番ヘ長調

第4番ヘ短調 第5番ト短調 (編曲者：早川正昭 解説)

ブラームスは若いときにハンガリー人のヴァイオリン奏者レメニーの伴奏者として、何回も演奏旅行をした経験がありました。このとき、アンコールピースとして、主にハンガリーに居たジプシーの音楽をピアノで伴奏したのですが、それをもとに、1868年の暮れにジムロック社から、ピアノ連弾用として「ハンガリー舞曲集」を出版しました。それらは、ハンガリア・ジプシーの音楽以外に、レメニーやブラームス自身の作った旋律も含まれていましたが、大変な人気を博し、オーケストラでも演奏されるようになったのです。

最初のオーケストラ編曲は、ミュンヘン在住の若い作曲家によるもので、今日でも演奏される程質の良いものでしたが、ブラームスは、「せいぜい野外で演奏される程度のもので、ゲヴァントハウスでの演奏会では使えない。」と酷評しています。そこで、ジムロック社はブラームス自身によるオーケストラ編曲を依頼し、ブラームスもそれにとりかかりましたが、かなり手こずったらしく、第一番、第三番、第十番の三曲を編曲した時点で「自分はピアノのために書いたのであって、オーケストラで演奏するのなら、別の考えをするだろう。」と言ってあとの曲の編曲を諦めてしまったのです。

その後、ドヴォルザークをはじめ何人もの人が、このハンガリー舞曲のオーケストラ編曲をしましたが、今日では、第五番が最もポピュラーで、多くの人に愛されています。ハンガリー舞曲全21曲をオーケストラで演奏しているCDも各種出されていますが、それぞれの曲によって編曲者が違い、統一がとれていません。そこで、今回は、私が第二番、第四番、第五番をブラームス風に編曲して、ブラームス自身の編曲と並べて演奏することにしたのです。

ブラームスの管弦楽法は下手ではありませんが、どちらかというと地味で、管弦楽の派手さを抑えているように見えます。その例を一つ挙げるとすれば、金管楽器の用法でしょう。ホルンやトランペットは、当時既にピストンやヴァルブが開発されていて、半音階を自由に吹けたのですが、彼はベートーヴェン時代の無弁の楽器でも吹けるような、自然倍音を主体とした古めかしい書法を用いています。

第一番は、第五番と並んで人気のある曲ですが、ブラームスらしい洪さが特徴です。第二番にはジプシー的な奔放さと、アルメニアン舞曲のような、東方の要素が感じられます。第三番は、中間部の強音の所以外はブラームスの作った旋律だそうで、ハンガリア舞曲の中でも、他と違った独特の雰囲気を持っています。第四番は、これぞジプシー音楽の真髄といった官能的な旋律ですが、中間部はがらりと変わって無邪気な踊りの旋律です。第五番は最もポピュラーで、よく演奏される編曲もかなりブラームス的ですが、私は今回更にブラームスに近づけたと思っています。

それぞれの曲の中にも非常に個性の異なったいろいろな旋律が用いられていますが、こうして、連続して演奏してみると、1曲ごとに異なった性格の曲が、目まぐるしい程の変化をもたらすように配列されていて、飽きることがありません。発表された当時の人も、その変化を楽しみ、その中に、自分に合ったお気に入りの曲を見つけたでしょうから、ブラームスの最初のヒット曲になったのも当然だったと思います。

貴方はどの曲が気に入りましたか？

コダーイ / 音楽物語「ハーリ・ヤーノシュ」

コダーイは20世紀に活躍したハンガリーの有名な作曲家です。同時代の作曲家で親友のバルトーク共にハンガリーの民謡を収集し、それを自分の曲に活かしたり、それを題

材にした「コダーイ・システム」と呼ばれる音楽教育にも力を入れたりしました。ハンガリーにナチス・ドイツが侵攻した時、バルトークはアメリカに亡命、亡くなるまで帰国することはありませんでしたが、コダーイは戦争中もハンガリーの地を離れることなく、ソビエト支配のつらい時代もその穏健で親しみやすい人柄と音楽で、「すべての国民に音楽を開放した人物」と人々に尊敬されました。

彼の代表作の1つ組曲「ハーリ・ヤーノシュ」は初演から好評だった同名のオペラを抜粋したもので、組曲にすることを勧めたのはバルトークだったそうです。ハーリ・ヤーノシュとは人のハンガリーの有名な伝説上の人の名前で、「ほら吹きハーリ」とも呼ばれています。

この組曲は下記の6曲から出来ています。

第1曲 前奏曲～おとぎ話は始まる

第2曲 ウィーンの音楽時計

第3曲 うた

第4曲 戦争とナポレオンの敗北

第5曲 間奏曲

第6曲 皇帝と廷臣たちの入場

今回はそれにナレーションをつけ、音楽物語としてお届けいたします。みなさんも曲名は聞いたことがなくても、テレビ等で耳にしたことがある曲だと思います。どうぞ、ナレーションでストーリーを追いながら、メロディも、オーケストラの華やかなサウンドも併せてお楽しみください。

本日の出演者

【コンサートマスター】

立田祥子

【第一ヴァイオリン】

石本恵理

上田佳津子

大橋一郎

亀井玲子

桑原千恵

小林吉範

佐々木裕史

鈴木薫

秦一宜

松延裕子

武藤敦子

【第二ヴァイオリン】

伊藤枝里子

大野道夫

大村光子

鎌田真貴

佐分利幸江

富田八江子

永田匡

根守弘和

松山和子

溝田範子

村上葉子

吉岡一郎

【ビオラ】

浅野さとみ

内田綾美

大橋かおる

小名康仁

高野重樹

奈良林弘子

星乗昭

若林繁

【チェロ】

岩田理人

大塚啓子

倉澤倫子

小松高明

中村公一

野中能久

日澤優

福原耕二

【コントラバス】

上村啓介

神代順子

菊池克彦

小林真弓

村上信乃

【フルート】

木村眞論紀

佐藤洋行

篠原梨恵

【オーボエ】

鈴木宏子

二村直子

本間広樹

【クラリネット】

一瀬直美

井垣貴嗣

時田雄

山本聡

八木良子

【バスーン】

伊吹直子

遠藤由紀子

金坂哲

菅原斉

【ホルン】

近藤利昭

潮見恵子

嶋村恒夫

林田朋子

藤井茂司

【トランペット】

安藤宣明

伊豫田望

酒井崇行

柴田奈穂美

西岡宏

山川拓也

【トロンボーン】

新井恵美

上田浩平

坂田圭

藪崎裕至

【チューバ】

渡邊鉄雅

【打楽器】

浅岡佐和子

大澤香奈

都筑裕

時田裕

春田美穂子

松村奈良子

武藤直子

【アルトサクソ】

宮崎裕二

【ピアノ】

鈴木珠美

市響ジュニアオーケストラで25年にわたり弦楽器トレーナーを勤められた、相原美音先生が病氣療養中のところ、去る12月10日にご逝去されました。これまでの貢献に感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 市川交響楽団協会 事務局